

1. 一般的項目:

腎生検数

▶ 項目の解説

経皮的に腎臓の一部を生検針にて採取する検査です。

▶ 定義

1年度あたりの数です。

コメント

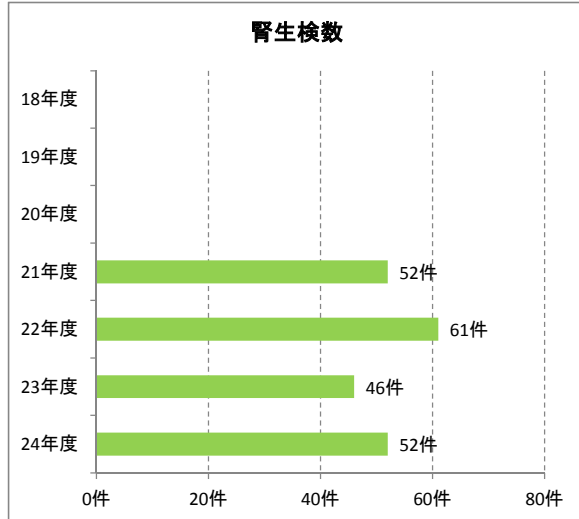
腎臓疾患をできるだけ正確に診断する手段です。それに基づき、各患者に合った治療方法の選択が可能となります。

算式

延回数

単位

件



上下部消化管内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

食道・胃・十二指腸および大腸に対する内視鏡検査です。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

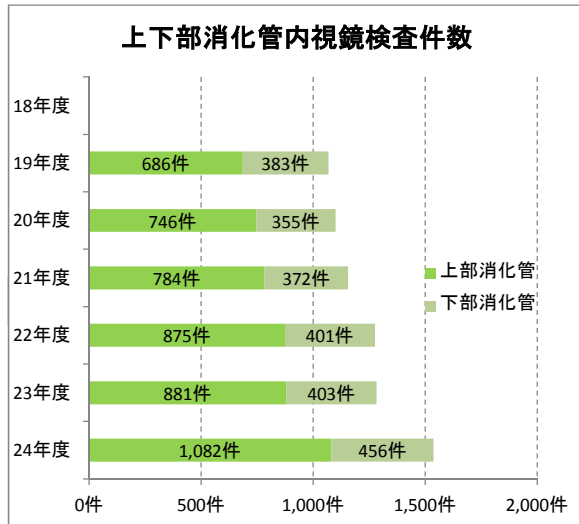
悪性疾患から炎症性疾患まで幅広い内視鏡診療を行っております。悪性腫瘍に対しては狭帯域光観察(Narrow Band Imaging:NBI)、拡大内視鏡、超音波内視鏡も行っております。

算式

延件数

単位

件



2. 大学病院特有項目:

心血管カテーテル治療件数

▶ 項目の解説

心臓を栄養している血管(冠動脈)の狭窄や下肢動脈の狭窄をバルーンで拡張したり、ステントと呼ばれる金属製の網状の管を留置したりする治療です。

▶ 定義

年間の延治療患者数です。

コメント

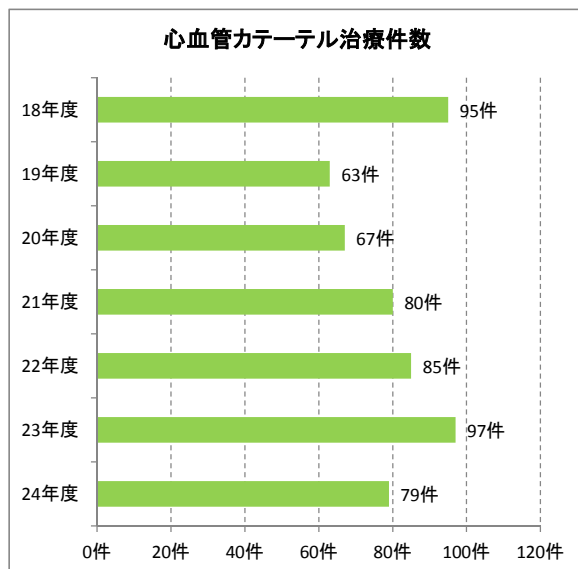
当科では様々な合併症を抱える虚血性心臓病患者を中心に、患者背景に十分配慮したカテーテル治療と、最適な術後薬物療法を提供できるよう努めています。

算式

延患者数

単位

件



診療科等のクリニカルインディケーター

心臓カテーテルアブレーション治療件数

▶ 項目の解説

カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)治療は、局所麻酔下でカテーテルという直径2mm位の管を心臓内に挿入して、不整脈のもととなる異常な部分に高周波電流を流し焼灼を行う治療です。

▶ 定義

年間の延治療患者数です。

コメント

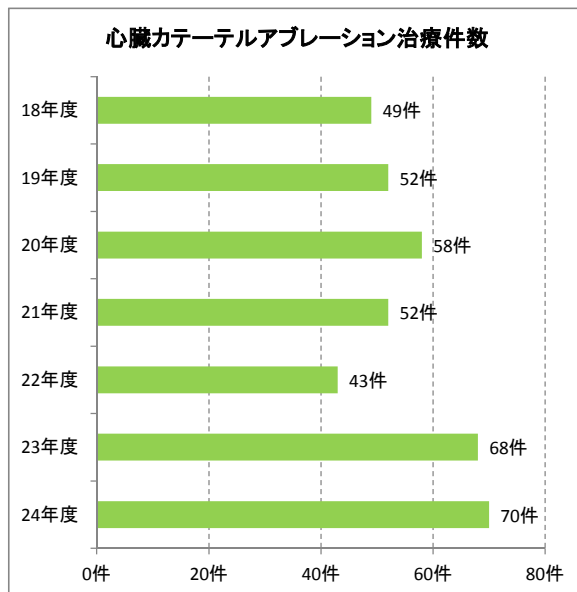
当科では県内の幅広い地域から多種にわたる不整脈疾患患者の紹介を受け、患者数は年々増加しております。最近では心房細動に対する治療も開始しております。

算式

延患者数

単位

件



小腸内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

ダブルバルーン小腸内視鏡(DEB)とカプセル内視鏡(CE)を用いた小腸疾患の内視鏡検査です。これまでは外科手術が必要であった小腸出血や小腸腫瘍などの内視鏡的診断と治療が可能となり、患者さんの負担軽減につながります。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

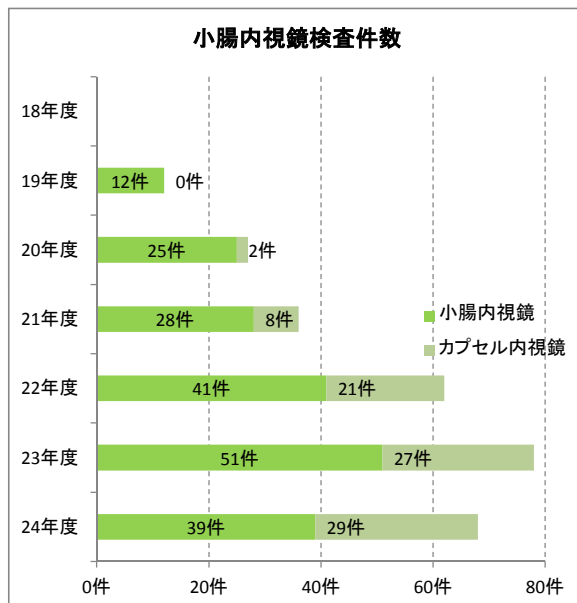
ダブルバルーン小腸内視鏡は平成17年、CEは平成20年より当科でも導入し、これまでは困難であった小腸疾患の内視鏡診断と治療が可能となりました。

算式

延件数

単位

件



内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数

▶ 項目の解説

早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術の施行件数です。リンパ節転移の可能性が極めて低い、粘膜内から粘膜下層浅層に留まる病変を、粘膜下層から剥離します。

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

平成24年に早期大腸癌に対するESDが保険適応になり、胃・食道・大腸癌に対するESDが行えるようになりました。外科手術よりも患者さんにかかる負担が軽く、入院日数も短縮されます。

算式

延件数

単位

件

